

水稻品種「金色の風」の栄養診断基準

【1 「金色の風」の栄養診断基準】

(1) 栄養診断基準

「金色の風」は稈長が伸長しやすく倒伏が懸念される品種です。高品質・良食味で収量 540kg/10a を確保するために、 m^2 当たりの粒数は 24,000~27,000 粒、稈長は 87cm 以下が適当です。この条件を満たすための幼穂形成期時点の稲の栄養状態は表のとおりです。

		幼穂形成期
窒素濃度 (%)		1.3~1.9
乾物重 (g/m^2)		260~360
窒素吸収量 (g/m^2)		3.8~6.0

(2) 簡易栄養診断基準

窒素分析ができない場合、幼穂形成期時点の簡易栄養診断値（草丈× m^2 当たり茎数×葉色値（SPAD 値））から追肥判断可能です。

表1 幼穂形成期の簡易栄養診断早見表

茎数 (本/m)	草丈 (cm)	葉色値 (SPAD値)			
		30	35	40	45
		$\times 10^6$			
400	55	0.66	0.77	0.88	0.99
	60	0.72	0.84	0.96	1.08
	65	0.78	0.91	1.04	1.17
	70	0.84	0.98	1.12	1.26
	75	0.90	1.05	1.20	1.35
450	55	0.74	0.87	0.99	1.11
	60	0.81	0.95	1.08	1.22
	65	0.88	1.02	1.17	1.32
	70	0.95	1.10	1.26	1.42
500	55	0.83	0.96	1.10	1.24
	60	0.90	1.05	1.20	1.35
	65	0.98	1.14	1.30	1.46
	70	1.05	1.23	1.40	1.58
550	55	0.91	1.06	1.21	1.36
	60	0.99	1.16	1.32	1.49
	65	1.07	1.25	1.43	1.61
	70	1.16	1.35	1.54	1.73
600	55	1.24	1.44	1.65	1.86
	60	1.35	1.58	1.80	2.03
	65	1.44	1.66	1.89	2.15
	70	1.53	1.75	1.98	2.27

表2 幼穂形成期の診断区分毎の対応策等

診断区分※	診断内容	追肥判断
1.0~1.4未満	十分な生育量	減数分裂期に2kg/10a追肥
1.4~1.6未満	生育量がやや過剰	減数分裂期に控えめに追肥
1.6以上	生育量が過剰	無追肥

※草丈× m^2 当たり茎数×葉色値（SPAD 値）/ 10^6

【簡易栄養診断の方法】

(例) 幼穂形成期時点で、草丈 65cm、茎数 450 本/ m^2 、葉色 (SPAD) 40 のとき

- 表1の早見表で簡易栄養診断値を確認します。上記の場合「1.17」となります。
- 表2で対応策を確認します。上記の場合、診断区分「1.0~1.4 未満」で追肥判断は「減数分裂期に 2 kg/10a の追肥」となります。

【2 留意事項】

- 「金色の風」の追肥時期は減数分裂期ですが、幼穂形成期時点の稲の状態です。
- 収量構成要素については平成30年度試験研究成果「水稻品種「金色の風」の収量構成要素」を確認してください。